

<全体分析>

試験時間 80 分

解答形式

マーク, 記述, 計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

理論, 無機, 有機とバランスよく出題されている。

その他トピックス

IVで天然繊維と化学繊維が問われた。また, 会話文形式による出題も含まれている。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク 記述 計算	分子の形 分子結晶 CO ₂ の性質 混合気体	化学	CO ₂ の性質と反応に関して, 分子の形や分子結晶の性質, 混合気体の計算, 製法などに関する内容である。H ₂ CO ₃ の電子式も問うている。	標準
II	マーク 記述 計算	電池 金属イオンの性質と反応 錯イオンの形 溶解度積	化学	CuとZnを題材に, ダニエル電池, 金属イオンの性質と反応, 錯イオンの形, 溶解度積など多角的に問うている。	標準
III	マーク 記述 計算	脂肪族化合物	化学	脂肪族エステル構造決定の内容であり, カルボン酸の性質, 酸無水物の構造なども含まれている。	標準
IV	マーク 記述 計算	界面活性剤 合成高分子化合物 タンパク質 中和滴定	化学	界面活性剤の性質と構造, 天然繊維と化学繊維, 合成樹脂, 合成高分子など多角的な内容である。また, アラミド繊維の原料の構造式なども問うている。逆滴定によるNH ₃ の定量も含まれている。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 理論・無機・有機をまんべんなく学習しておくこと。
2. 化学用語や定義を正確に理解しておくこと。
3. 基礎的な事項を十分整理してマスターしておくこと。
4. 標準的なレベルの問題を数多く行っておくこと。
5. 実験装置・操作についても, 注意しておくこと。